

2013年北村ゼミの研修旅行では、奈良県と京都府を訪れました。三泊四日の研修旅行では、日本古代史に関連した場所を中心に、平城宮跡や薬師寺、東大寺、平等院、伏見稲荷大社などを訪れました。普段は『続日本紀』などの文献史料をもとに学んでいますが、古代史に関わる場所に実際に足を踏み入れ、その雰囲気を感じることによって、更なる古代史への理解に繋がるように努めました。ここでは、その中でも特に平城宮跡と浄瑠璃寺を訪れたときのことをお伝えします。

【平城宮跡】 710年につくられた平城京。

その政治の中心となった平城宮跡を訪れました。



・第一次大極殿

第一次大極殿は、広大な土地面積を持つ平城宮跡の中でも目立つ存在の一つでした。この復元された建物内を見学してみると、朱色の柱と木材を格子状に組んだ組入天井が視界に広がりました。また、四神や十二支が四方の小壁に彩色されているのも印象的でした。実際にここで国家儀式が行われていたのか、と想像しながら見学していきました。



・高御座

第一次大極殿内にある高御座です。天皇が着座する玉座ですが、各種の文献史料等を参照して作成された実物大のイメージ模型だそうです。目の前で見ると、その大きさと豪華さに圧倒されました。ここで天皇は政治をしていたのかとイメージするだけで、今までと史料との向き合い方が変わるように思えました。



・遺構展示館

ここでは、発掘調査で見つかった遺構や大型の復元模型などが見られました。遺構や発掘された大きな井戸などを間近で見ると、よりリアルに迫ってくるものがあるように感じました。

【浄瑠璃寺】 京都府の真言律宗の寺である浄瑠璃寺を訪れました。



・九体阿弥陀堂 其の壺

九体阿弥陀如来像を安置するお堂です。研修旅行では、最初にこのお堂内の九体阿弥陀如来像にお会いしました。丁度よく説法を聴くことができ、安置されている仏像のこと、境内のことについてお話を聴くことができました。



・九体阿弥陀堂 其の貳

外から見たお堂の様子です。実は、浄瑠璃寺の九体阿弥陀堂は、お堂自体が厨子の役割をされているそうです。実際、阿弥陀如来像は目と鼻の先ほどの近い距離で見ることができました。平安時代に造られた仏像を身近で拝見できた貴重な経験でした。



・三重塔

薬師如来像が安置されている平安時代の塔です。薬師如来像は秘仏のため、開扉日以外は見ることができません。研修旅行のときは、開扉日ではなかったので、そのお姿を見ることはできませんでした。しかし、浄瑠璃寺はお堂と三重塔が丁度向き合うように配置されていて、三重塔から見た九体阿弥陀堂もとてもきれいでした。

境内の建物の配置にも意味が込められていることができたお寺でした。

(文責：鈴木友香)